

デルタ総研だより

interview

中山
理恵子ワイヤレス通信部
基地局建設構築課

課長



株式会社デルタ総研初の女性管理職、中山理恵子。ブライダル業界からITの世界へ転身した異色の経歴の裏には、幾多の挑戦とゆるぎない信念があった。いかにして道を切り拓き、何を大切にチームを率いるのか。その仕事の流儀に迫る。

「楽しい」を原動力に未知の世界へ。 挑戦の日々の幕開け

ブライダル業界で2年間、お客様の一生に一度の日を彩る仕事に携わった後、未知の領域へと足を踏み入れた中山。デルタ総研へ入社する前、契約社員として在籍していたとある通信会社の登録センターで、ネットワーク開通工事のプロジェクトへ異動を打診されたのがその始まりだった。

「非常に大変でしたが、工事が完了するという明確なゴールがある。その達成感が楽しくて」と当時を振り返る。

法人向けサービスの開通工事は、1つとして同

じものはない。顧客のニーズに合わせて回線やプランが異なれば、工事の段取りも千差万別だ。複雑な調整を乗り越え、ネットワークが開通し、お客様のビジネスが動き出す。その瞬間の喜びが、中山をこの世界の虜にした。複数の会社で経験を積んだ後、さらなるスキルアップを目指してデルタ総研の門を叩く。そこには、自身の強みであるホスピタリティを活かし、より広い領域で活躍したいという強い想いがあった。

苦い経験を力に。 失敗から組織を守る仕組みづくり

輝かしいキャリアの一方で、今も胸に刻まれる苦い経験がある。それはデルタ総研へ入社する以前の出来事。新しい職場に入って間もない頃に、メールの誤送信をしてしまった。

「思い出すと、今でも怖いです」。

業務の意図を完全に理解しないまま、メールを



▲過去の様々な経験が血肉になっているという

送信していた結果のミスだった。自身の失敗が原因で、お客様がさらにその上の企業へ謝罪する事態にまで発展し、責任の重さを痛感した。

中山はこの教訓を、未来のリスクを摘むための力に変える。自ら「メール自動作成ツール」を開発し、管理票から情報を貼り付けるだけで宛先から本文までが自動生成される仕組みを構築した。ツールを過信せず、送信前の入念なチェックも徹底するよう指導し、情報漏洩に繋がるミスが起きない環境を整えている。

一人ひとりが責任を持つ組織へ。 平均点の高いチーム

中山が課長に就任したのは約1年前だが、現場のマネジメントは主任時代から担ってきた。入社後1年足らずで10名ほどのチームを率いる立場となり、その手腕は早くから評価されていた。課長昇進の決め手の1つとして自身が挙げるのが、MBO（目標管理制度）の一環で自発的に企画・実施した研修だ。

きっかけは、課題であった申請書の作成ミス。作業手順だけをこなすのではなく、業務の全体像を理解すれば、リスク予知能力も高まり、仕事の質が上がると中山は考えた。自社にいるメンバーだけでなく、お客様先のメンバーにも広く呼びかけ、20名以上が参加する研修を実現させた。

この行動の根底には、中山がチームビルディングで最も大切にしている「知識とスキルの平均化」と

いう哲学がある。1人のスーパーマンに頼るのではなく、全員が同じレベルの知識とスキルを持ち、誰が欠けても困らない体制をつくる。それこそが、本当の意味でのダブルチェックが機能する強い組織になると考えているのだ。

未来を見据えるリーダーの次なる挑戦

部下と接する上で、中山が常に心に置いているのは「メンバーあつての組織」という考えだ。それは、ただ優しくするのではない。一人ひとりを尊重するからこそ、時には厳しく、高いレベルを要求する。

在宅ワークの開始を機に、上からの管理に限界を感じた中山は、各メンバーの意識改革に着手。「自分から発信しないと伝わらない」という心構えや、「提出期限を守るのは、次の工程の人への思いやり」「信頼があれば、もっと働きやすい環境を自分で作れる」といった考えを伝え続けている。その際、相手に合わせた丁寧な伝え方を心がけるのは、メンバーの未来を見据えているからに他ならない。どのような環境でも正当な評価を受けてほしいという、親心にも似た愛情の表れだ。

中山自身の課題は、苦手意識の強いプレゼンテーションだという。管理者として欠かせないスキルを身につけるべく、緊張感のある場に立つ機会を意識的に作ろうとしている。

現状に甘んじることなく、常に自身の成長と向き合う真摯な姿勢が、チームを、そして会社を、さらなる高みへと導いていく。しなやかな発想で課題を乗り越え、揺るぎない信念で組織を強くする中山の挑戦は、多くの社員にとって確かな道しるべとなるだろう。



▲越後妻有里山現代美術館 MonET にて

社員が語る！

デルタ総研の魅力

「なぜデルタ総研の社員は輝いているのか？」その秘密は、会社と社員が一体となって成長を追求する文化にあります。当社の魅力を肌で感じている村椿さんから、社員の声が届く環境、技術を活かす面白さ、そして前向きな仲間たちとの交流から生まれる、デルタ総研ならではの魅力を教えていただきました。



法人サポート部
法人サポート 2 課

むらつばき やすひと

課長 **村椿 康仁さん**

仕事の楽しさ編

技術で課題を 解決できるところが



幅広い知識習得による自己成長

自身の持つ技術を最大限に活用し、お客様の課題を解決できる点に、楽しさを感じます。さらに、インフラエンジニアとして専門性を深めつつ、常に新しい技術に触れ、自己研鑽を続けることで、自身の市場価値を高められることが、大きな喜びとやりがいです。

現在、私はショールームで通信インフラの専門知識を活かし、展示インフラ導入でリーダーシップを発揮。NTTのIOWN伝送装置など、過去の経験と知識が構築やメンテナンスに役立っています。**自身の技術がお客様や社会に貢献する瞬間に、大きな達成感と仕事の楽しさを感じています。**

会社の理念・制度編

社員の声が会社を 動かすところが



風通しの良さ

経営陣と社員の距離が近く、活発なコミュニケーションにより、**社員の意見や提案が会社の制度・運営に直接反映されます。**これにより、社員は日々の業務だけでなく、会社全体の仕組み作りにも関わることができ、強い帰属意識と貢献実感を抱きながら働けます。

新人教育が実践的で、現場マネージャーからも評価されています。研修内容は現場ニーズに合わせ常にアップデート。**即戦力としてスムーズに業務に適應でき、教育内容へのフィードバックも迅速に行われます。**これは、経営陣と社員の密な連携が生む柔軟かつ迅速な対応の証です。

社員の雰囲気・人柄編

仲間とともに 高め合えるところが



スキルアップを支える協力的な社風

社員は皆、スキルアップに非常に前向きで、努力を惜しみません。**多様な技術を吸収し現場で最大限に発揮しようとする高い意欲が当社の強みです。**この環境は個人の成長を促し、チーム全体の技術力向上に貢献しています。

社員一人ひとりが、技術力向上に前向き。その姿勢は行動にも表れており、休日開催の会社主催勉強会や自主的な資格取得に多くの社員が励むほど。サーバーやプログラミングなど専門分野ごとの学習チームもあり、2日間の集合講習後に自習トレーニングを行うなど、個人の主体的な学びを会社全体で支援する文化が根付いています。この学びの機会と、互いを高め合う仲間たちの存在が、魅力的な社風を形成しています。

柱プロジェクト特集

第2弾

今回は柱プロジェクトの一環であるクラウド研修を率いるアウトソーシング技術部の坂根部長に話を伺いました。未経験からでも市場価値の高いスキルを身につけ、自身のキャリアを切り拓くため、ぜひあなたも挑戦してみませんか？

柱プロジェクトについておさらい

希望者を対象に、ネットワークに関する簡単な問題を解きながら基礎から学んでいく取り組みが柱プロジェクト。

アウトソーシング技術部 兼
保全運用部

さかね かずひこ

部長 坂根 和彦さん

～クラウド研修チーム編～

クラウド研修の概要

- 対象者: 参加条件なし。学習意欲のある方ならどなたでも
- 開催形式: 週1回・計4回コース、リモート参加も可能なハイブリッド形式
- 研修内容:
Amazon AWSの環境を使用
ユーザー作成からサーバー構築、撤去まで、実践的なフローを体験

受講者がお客様との面談でアピールできる実践的なスキルを習得し、業務参画への第一歩を踏み出すことをゴールとしています。

理解が深まる研修をつくるには？ 運営側の工夫

受講者を置いていかない資料作りと 講師の教育レベルの統一

研修で最も力を入れていることのひとつが、資料の作り込みです。単に手順をなぞるだけでは、本当の力は身につきません。なぜこの操作が必要なのか、一つひとつの機能の背景や目的まで丁寧に解説し、思考のプロセスを追いながら学べるよう工夫をしています。

また、講師によって満足度に差があるという状況は、受講者にとって不幸なことです。講師チームで研究を重ね、誰もが同じ質の高い教育を受けられる体制を整えています。



研修の成果

受講者からの「教えた」

2024年の研修は、大成功だったと感じています。受講者からは「わかりやすく、十分に理解できた」という声を多数いただきました。何より嬉しかったのは、昨年受講したメンバーの中から、今年の講師に自ら立候補してくれた者が出たことです。彼らはクラウド業務未経験ながら、「伝えることで、より深く知りたい」という強い意欲を持って手を挙げてくれました。私たちの想いが、次世代の意欲に火をつけたのではないのでしょうか。

受講者へのメッセージ

挑戦が、次のキャリアを創る

研修の真の成功は、皆さんがそのスキルを活かし案件に参画することだと考えています。

クラウド業界は、チャンスが溢れるブルーオーシャンです。この研修を、皆さんが自身の未来を切り拓くための、力強い選択肢の一つとして活用してもらえたら、これほど嬉しいことはありません。皆さんの挑戦を待っています。